

## 第6学年2組 外国語活動学習指導案

指導者：八幡小学校主幹教諭 岡本真砂夫 (JTE)

外国語指導助手 ○○ ○○ (ALT)

### 1 単元名 “I can swim.” (Hi, friends! 2 Lesson 3, We can! 1 Unit 5)

### 2 趣 旨

○本単元で扱う “Can you swim?”は、Hi, friends!では “swim” “cook”のみが自動詞で、その他は “play baseball” “play the recorder”等、他動詞が用いられている。新教材 We can!では、“Can you swim well?”のように 副詞 “well”が加わり、能力の程度を問う表現になった。これにより、“Can you swim?”と尋ねられた際に、「少しは泳げるレベル」か「水泳大会に出場する選手レベル」か、判断に迷う曖昧さ(多義: ambiguous ではなく、vague な曖昧さ)が取り除かれた。また、Hi, friends!ではいきなり他動詞文が扱われていたのに対し、We can!では自動詞 “run” “jump” “sing” “swim”から導入されており、他動詞 “play”に発展させる展開となっている。これにより目的語がない文で練習ができるため、児童の負担が軽くなっている。音声面に目を向けると、“Yes, I can.”と “No, I can't.”の “can” “can't”は、児童にとって区別が難しいといえる。一般的に “can” “can't”の違いは、“can't”の語末に [t]の音がくると考えられている。しかし、この [t]は聞こえ度 (Sonority)が低く、ほとんど聞こえない。We can! ビデオ映像において発話されている “can't”の音声では、ゆっくりと話されているが、やはり [t]の音が小さい。“do” “don't”の場合は鼻音 [n]のあるなしで判断することもできるが、“can” “can't”にはどちらも [n]音が存在するため、難易度がより高いといえる。“can” “can't”の違いはむしろ、/a/音そのものの音と長さにある。“can”を辞書で調べると、強形 [æ]と弱形 [ə]の2つの音がある。“can”の /a/は [æ]であり “can't”は [æ]である。“can”は弱形なので長さ(Duration)が短くなり、“can't”は強形なので長くなる。なお、We can! 1 Unit 5 では三人称の導入に “can”が用いられている。“He can run fast.”と、助動詞 “can”を加えることで動詞が原形で用いられることになり、三人称単数現在の “s”を用いなくて済むようになっている。

○ 本学級の児童は明るく素直で、前向きに外国語活動に取り組んでいる。発声することが英語の力を高めることを理解しており、元気に声を出して授業に取り組んでいる児童が多い。児童は5年生で曜日、月、教科等の単語を定着させており、新しい知識を得ようとしている意欲が高い。一方、英語教室での専科授業は今年度からであり、対話文を定着させるためのゲーム活動、場面を設定しての「なりきり」活動、名簿を用いたインタビュー活動等の経験は少ない。また、対話文、語彙の蓄積がまだ十分ではなく、児童同士でスモールトークを行うことに難しさを感じる児童が多い。

○ 本時は第1時なので、まずは自動詞を用いて活動を行い、その際 “well”等の副詞は用いないこととする。副詞を用いないで曖昧さを取り除くため、「程度」ではなく、「能力(Ability)」と「依頼 (Request)」の文脈で “can”を用いることにした。「能力」に関しては、「飛ぶ」「泳ぐ」「歩く」等の、自動詞から動物名を当てる活動を取り入れた。この活動では、動物の能力そのものを問うため、「程度」を尋ねる副詞表現が不要で、答えが明確である。また、“Can”には、“Can you help me?”等の「依頼」の意味がある。“Can you pass me the salt?”は、「塩を渡してもらうことは可能か」と尋ねているのではなく、「塩を取ってください」と依頼している表現であり、依頼を暗示する “can”は多くの文脈で用いられる表現である。「依頼」の文脈を取り入れるため、水中に落としたりした財布を拾ってもらったり模擬活動を取り入れた。音声に関しては、ビデオ映像の音声を音声分析ソフト Praat より再生し、長さの違いを視覚から理解させる。そして、ロールプレイやカード交換ゲームを通じて、発声時間の違いを練習させる。「英語の強形は長い」を感じる活動を重ねることで、ヘボン式ローマ字における長音表記、そしてシラブル言語である音節リズムと、モーラ言語である日本語の拍リズムについて考えさせていきたい。自動詞として用いた “eat” “drink”に目的語をつけ、互いにインタビューさせる活動から、他動詞文、副詞(high, fast, well, very)を用いた表現に繋げていきたい。

### 3 小中一貫教育の視点

助動詞 “can”は、中学校1年生の Lesson 7 “Sports for Everyone”において「可能」の肯定文、否定文、疑問文が扱われている。また、Let's talk 7では「依頼」の文脈で扱われており、本時で表現に慣れ親しむことで中学校での英語学習にも円滑な接続を図ることができる。

### 4 単元の目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

○ 積極的に友達に「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりしようとする。

【外国語への慣れ親しみ】

○「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。

【言語や文化に関する気づき】

○言語や人、それぞれに違いがあることを知る。

5 主な言語材料

(例) I can/ can't. Can you *vi.*? Can you *vt.* O? Yes, I can. /No, I can't.

play, swim, cook, ride, piano, recorder, basketball, soccer, baseball, badminton, table tennis, unicycle

6 指導計画 (全5時間)

第1時 自動詞を用いた「可能」「依頼」の表現に慣れる。“Yes” “No”における“can”の /a/ 音の音([ə] [æ]), 長さの違いに慣れる。(本時)

第2時 他動詞を用いた「可能」の表現を使って, 積極的に交流しようとする。

第3時 自動詞に副詞“fast” “well” “high”を加えた表現に慣れる。

第4時 副詞“very”を加えた表現に慣れ, 友達と積極的に交流しようとする。

第5時 自分のできることやできないことを発表したり, 友達の発表を聞いて, 友達の良さを見つけようとしたりする。

7 本時の目標 (1 / 5時間目)

○ 音の特徴を意識しながら「可能」「依頼」の表現に慣れ, 友達とのやり取りを楽しむ。

8 本時の展開

学 習 活 動	教師の支援と指導上の留意点 ●評価		備 考
	JTE	ALT	
1. Greeting 挨拶の練習をする。	フラッシュカードを使って発声練習をさせる。	挨拶の手本を示す。	フラッシュカード 万国旗 英語カルタ デジタルコンテンツ
2. JTEとALTで“Can you <i>vi.</i> ?”と尋ねる状況を提示する。	“touch” “jump” “skip”の自動詞を使い, ALTと手本を示す。	JTEと対話することで, 児童に音声を聞かせる。	
3. 自動詞のフラッシュカードで単語練習をした後, カルタを楽しむ。	フラッシュカードを使い, 単語を反復練習させる。	カルタを読むことで, 音声を聞かせ, 練習させる。	
4. We can! 1 Unit 5 Listen 1を視聴し答えを考える。	デジタルコンテンツを提示する。		
“Can you <i>vi.</i> ?”を使って, 活動に取り組もう。			
5. 様々な状況で“How are you?” “Can you swim?”の会話を行う。	フラッシュカードを使って発声練習をさせる。	挨拶や対話の手本を示す。	ICT 機器
6. カード交換ゲーム	“touch” “jump” “skip”の自動詞を使い, ALTと手本を示す。 ● 音を意識しながら対話に取り組んでいるか。	JTEと対話し, 手本を提示する。	交換ゲーム用カード
7. 互いにインタビュー“Can you eat 納豆?”	名簿を使い, 互いに対話させる。 ● 友達の「可能」について知ろうとしているか。	児童と対話し, 英語でのやり取りを経験させる。	名簿
8. Greeting 挨拶をする。		児童と挨拶をする。	